

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医学研究科

◎ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

[医科学専攻(修士課程)]

標準修業年限(2年)在籍し、課程設置の趣旨と人材養成目的に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数以上を修得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、研究科が行う修士論文の審査及び試験に合格した者に対し、修士(医科学)の学位を授与します。

1. 医科学分野における十分な基礎知識の修得
2. 医科学分野の研究を遂行する能力や高度の専門性を求められる職業等に必要な能力及び強い責任感と高い倫理観
3. 知識の専門性を高め、基礎医科学研究の幅を広げながら研究成果を発信できる能力

[医学専攻(博士課程)]

標準修業年限(4年)在籍して、体系的教育コース(コアプログラム)及び専門領域における研究指導コース(専門プログラム)合計で30単位以上を修得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、査読のある国際的学術誌に筆頭著者として公表する原著論文についての学位審査及び最終試験に合格した者に対し、博士(医学)の学位を授与します。ただし、評価の高い国際雑誌に論文を発表し、高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を確認できた場合には、3年次に学位試験を受験することができます。

1. 基礎医学研究及び臨床医学研究に必要な幅広い研究領域の知識・技能及び研究を企画・遂行できる能力
2. 大学院生が希望する研究領域の研究において、専門的知識・技能を駆使し自ら研究プロジェクトを遂行できる能力、同時に研究の本質を見極める判断力、独創的な発想、強い責任感と高い倫理観及び新たな分野を切り拓く能力
3. 国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し当該分野の研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力

◎カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

[医科学専攻(修士課程)]

本専攻においては、医学分野以外の教育を受けた学生・社会人・外国人などに対し、医科学の基礎的知識を身に付け、更に専門的研究力を身に付けるための教育課程を編成します。

1. 一般教育科目
医科学分野の基礎的知識を修得し、のちに専門的研究力を身に付けるために必要となる基礎的な能力を修得するカリキュラムを編成します。

2. 専門教育科目
医療関連企業従事者、病院勤務者、大学・研究所勤務者などが、それぞれのキャリア・興味・関心に応じて、自らに不足している高度な専門的知識・技能及び研究を遂行できる能力を修得する授業を展開するとともに、研究者や高度専門職業人に求められる判断力、

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医学研究科

強い責任感及び高い倫理観を育むカリキュラムを編成します。

3. 特別研究科目

研究計画書に基づいて研究を遂行し、厳格な評価の下、研究成果の中間発表、修士論文の審査及び試験を適切に実施します。それらの評価結果の活用を通じて教育方法の改善を図ります。

[医学専攻(博士課程)]

本専攻においては、研究者に必要な基礎的能力を養うコアプログラムと、それを応用する方法を学ぶ専門プログラムからなる教育課程を編成します。

1. コアプログラム

大学院初等教育として、Basic Course（基礎医学から医療法制に至るまでの基本的知識）・Research Support Course（実験方法や解析方法の基礎的知識）、Advanced Course（研究プロジェクト遂行と学位論文作成のための基礎教育）、大学院実践教育コース（15のテーマから選択可能な基礎・臨床医学融合型のコースワーク）の3つのプログラムで、実践的な研究遂行能力を育成します。これらと並行して、大学院教育レクチャーシリーズでは、大学院特別講義（英語による講義を含む）、Current Topics（学内で開催される最先端の医学・医療セミナー）及びE-learning等のコースワークを編成します。

2. 専門プログラム

大学院生が希望する研究領域の研究室における個人指導によって、自ら研究プロジェクトを遂行し、研究の本質を見極める判断力、独創的な発想、強い責任感と高い倫理観及び新たな分野を切り開く能力を修得するプログラムを編成します。これには、研究者養成コース（基礎系・臨床系）、高度臨床専門家養成コース（臨床研究）、スペシャリスト養成コース（感染制御専門家養成コース、次世代先導的がん研究者養成コース、健康・予防医学専門家養成コース）を置き、各コースはコースワークと専門研究で構成され、キャリアパスに応じ、コース間の乗り入れを可能としています。

3. 研究遂行・成果発表

研究計画書に基づいて研究を遂行し、3年次後半に学位論文の研究に関する研究成果の中間発表を行います。中間発表は抄録作成・口頭発表ともに英語で行い、英文による論文作成を指導します。審査員による評価と助言を受けると同時に研究の進捗状況が研究科委員会に報告されます。それらの評価結果の活用を通じて教育方法の改善を図ります。

以上のような大学院教育によって、生涯にわたって医学と向き合う姿勢を持った基礎医学者や臨床医学者、及びその両方を兼ね備えた Physician-Scientist、究極的には心身共に病める人々を救済する“志高き医師・医学者”を育成します。

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

スポーツ健康科学研究科

◎ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

スポーツ健康科学研究科は、建学の理念及び教育目標の下、課程毎に定める基準を満たし、次の資質・能力を身に付けるとともに、学位論文の審査及び試験に合格した者に対し、その課程に応じ所定の学位を授与します。

[スポーツ健康科学専攻(博士前期課程)]

1. スポーツ健康科学に関する高度な専門性を必要とする職業に不可欠な広範で深い知識や研究を遂行する能力
2. 高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と創造力
3. 得られた知識を基に、学問的課題に論理的解答を与えるとともに学問的成果を論理的にまとめ、国際的に発信できる能力

[スポーツ健康科学専攻(博士後期課程)]

1. スポーツ健康科学に関する高度で先進的な専門業務の従事に相応しい独創的かつ妥当な研究を行うことができる能力
2. 高い倫理観を持ち人々の健康で文化的な生活形成に貢献できる実践力と独創性、スポーツ健康科学に関する知識の深化と合わせて真理の探究に向かう真摯な姿勢
3. 国際的視野を持ち、研究成果を国際的に発信し、スポーツ健康科学研究の発展に貢献できる能力や高度の専門性を求められる職業等に活かし指導的役割を果たす能力

◎カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

大学院においては、学生が能動的に学ぶことを重視した教育方法を実践するとともに、ディプロマ・ポリシーに示す高度な研究能力・実務能力を身に付けられるよう、課程毎に以下のとおり教育課程を編成・実施するとともに、学修成果を適切に評価します。

[スポーツ健康科学専攻(博士前期課程)]

博士前期課程では、スポーツ健康科学の専門家の養成に向け、入学後の半年間で基礎知識等を学べるように基礎科目を配置した上で、専門科目を配置します。基礎科目と専門科目で得られた知識を基に、学問的課題に論理的解答を与えるためのより高度な専門的研究法を提供し、学問的成果を論理的にまとめる能力や高い倫理観を醸成するため修士論文を課します。修士論文は、審査会及び発表会を実施することで評価します。それらの評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

[スポーツ健康科学専攻(博士後期課程)]

博士後期課程では、スポーツ健康科学の分野で国際的に先進的な活躍ができる研究者や高度専門職業人の養成に向け、スポーツ科学、スポーツ社会科学及び健康科学に関する研究の先鋭化と深化を図り、さらに、これらを総合するための講義や演習科目を開講します。その上で、研究指導教員及び研究指導補助教員が、少数の学生に対して、修業年限内での博士論文作成を目指すのみならず、真理の探究に向かう真摯な姿勢、国際的な視野、指導力及び高い倫理観を

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)
大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

スポーツ健康科学研究科

育むよう濃厚な指導を行います。博士論文は、審査会及び発表会を実施することで評価します。それらの評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医療看護学研究科

◎ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

[看護学専攻(博士前期課程)]

標準修業年限(2年)在籍し、修了要件となる単位を取得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、修士論文又は課題研究論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、学位(修士(看護学))を授与します。

1. 看護学の専門分野に関する研究に高い倫理観をもって取り組む研究能力
2. 高度な専門性を発揮するために必要な広範な知識を体系化し、質の高い看護ケアが実践できる能力
3. 高度な看護実践、研究・教育活動を通して国際的・社会的に貢献できる能力

[看護学専攻(博士後期課程)]

標準修業年限(3年)在籍し、修了要件となる単位を取得し、次の資質・能力を身に付けるとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に対し、学位(博士(看護学))を授与します。

1. 高い学識及び高度な専門知識・実践能力に基づき、新たな理論構築や看護ケアの開発ができる研究能力
2. 卓越した専門性と倫理観、責任感を有し、指導者、管理者、教育者、研究者として学際的・国際的に、学术交流、保健医療活動に貢献できる能力

◎カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

[看護学専攻(博士前期課程)]

博士前期課程では、各専門専攻分野の高度な看護実践者、看護学教育者、看護学研究者を育成するために特別研究コースと専門看護師コースを置きます。特別研究コースでは看護学の理論とその構築に必要な研究能力を、専門看護師コースでは高度な実践能力と実践の場における研究能力が探求できるように教育課程を編成します。研究・学修成果の評価は、予め明示した評価基準に基づき、総合的評価を行います。それらの評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

1. 共通科目
特別研究コースと専門看護師コースの両コースにおける研究法、倫理観、学修の基盤となる広範な知識を修得する授業科目を設けます。
2. 専門科目
各専門専攻分野の高度看護実践者、看護学教育者、看護学研究者を育成するために必要な授業科目を設けます。

大学院ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

大学院カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

医療看護学研究科

3. 演習・研究指導

特別研究コースでは特別研究、専門看護師コースでは課題研究を置き、特定の課題を見極めるための演習指導を行い、高度な専門的研究法を修得させ、学問的成果を論理的にまとめる能力の醸成のため修士論文を課します。

[看護学専攻(博士後期課程)]

博士後期課程では、個人及び個人を支える家族や地域で生活する人々の看護支援、看護職者の教育支援の開発や看護提供システムの構築などについて、新たな分野を切り拓く研究能力の養成を目指し共通科目、専門科目、演習・研究指導から編成します。研究・学修成果の評価は、予め明示した評価基準に基づき、総合的評価を行います。それらの評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

1. 共通科目

看護学の本質を探求できる能力に基づいた質の高い研究成果と高い倫理観・責任感に結びつくことを目的とします。

2. 専門科目

広範な健康問題や看護課題について実践的な研究が行えることを目的とし、看護学の知識や技術の検証、新たな理論や方法論の創設等、より高度な研究能力を身に付け、自らの研究テーマに関わる看護問題とその研究的アプローチを複数の専門領域の視座を通して学修し、学問的基盤を涵養します。博士前期課程(修士課程)の12分野をベースとして、個人及び個人を支える家族や地域で生活する人々の看護支援開発、管理システム及び教育支援について高度な専門知識・学問的視座の修得を目指し12科目を設定します。専門科目は2科目以上履修することとします。

3. 演習・研究指導

国内外の看護系大学及び研究機関において教育・研究活動を担える指導者・研究者・管理者及び保健・医療・福祉の場で科学的視点を持ち、教育・研究能力が発揮できる高度専門職業人に必要な研究の先鋭化と深化が図れる研究能力の修得を目指し、「看護学演習」「看護学特別研究」を設定します。